



木山小学校だより

<教育目標> やさしく かしく たくましく

そま ひと
杣人

第5号 令和7年7月25日

新潟市立木山小学校

〒950-2252 新潟市西区谷内1886番地
TEL. 025-239-2044 FAX. 025-239-3807

手が離れても目を離さず

校長 寺田 武文



4月の始業式から早くも4カ月が経過しました。この春入学した1年生もすっかり学校生活になれ、毎日元気に学習に取り組んでいます。先日、学校園「スマイルファーム」で小玉スイカの収穫を行いました。3, 4, 5年生の子どもたちがJAかがやき新潟の方や地域のボランティアの方から教えていただきながら育ててきたスイカです。子どもたちは、獲れたてのスイカを味わいながら、収穫の喜びをかみしめていました。こうした活動を通して、

地域の方と交流したり、地域の魅力に触れたりできることは、本当にありがたいことです。

さて、明日から夏休み期間に入ります。今年の夏休みは、7月26日から8月26日までの計32日間です。本日行った全校朝会では、「はてな？」や「やってみたい」という気持ちを大事にして、夏休みでなければできない課題に挑戦してほしいという話をしました。学校からは作文や科学研究、図画工作、レシピコンテストなど夏休み明けに応募できる各種コンクールなどの紹介もさせていただきました。是非、長い休みを利用して自分の興味・関心を深めたり、苦手克服に取り組んだりしてほしいと思います。



ところで、「子育ての心得」として知られる「子育て四訓」という教えをご存じでしょうか。子どもの発達段階に比例して、親と子どもの距離を離していくこと。そんな子育てのヒントを分かりやすい言葉で教えてくれています。

およそ小学校の学齢期にあたる少年期（6歳～12歳頃）は、心身の発達が著しく、自立心が芽生えて親の手を借りずにできることが増えていく期間です。親は少しずつ手を離し、子ども自身に挑戦させることで、自律心や責任感を育むことが重要になります。一方、この時期の子どもたちはまだ判断力が未熟で、無謀な行動を取ったり、後先考えずに行動したりすることがあります。親の手が離れて、自由に行動、選択させる場面が増えたとしても、決して放任せず、しっかりと目を離さずに見守ることが大切になってきます。「少年の時は、手を離して目を離さず」という言葉には、過度に干渉せずに子どもの自主性を尊重しながらも、親がしっかりと見守り、適切なサポートをすることの大切さが込められています。

夏休みは、子どもたちが心身ともに成長するチャンスである一方、自由な時間や外出の機会が増えることから、けがや事故など予期せぬトラブルへの注意が必要な期間でもあります。学校からは、学級便りのほかに、「木山っ子の夏休みのやくそく」や「ほけん便り」などを配付しています。お子さんと一緒にご覧いただきながら、夏休みの過ごし方についてご家族で話し合っていただければと思います。

子どもたちにとって有意義で安心・安全な夏休みになることを、職員一同心より願っています。

【子育て四訓】

1. 乳児の時は、肌身離さず
2. 幼児の時は、肌を離して手を離さず
3. 少年の時は、手を離して目を離さず
4. 青年の時は、目を離して心を離さず

（山口県在住の教育者が提唱／エリック・H・エリックソン発達段階論）